

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3670101884
法人名	医療法人 清和会
事業所名	グループホーム かがやき2号館
所在地	徳島県徳島市八万町橋本80番地 (電話) 088-668-1071

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 3月 6日

## 【情報提供票より】(平成20年2月12日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 3日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	22 人 常勤 19人,非常勤 3人,常勤換算 ユニット1 7.25人,ユニット2 5.45人,ユニット3 7.3人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	4 階建ての	1 階 ~	3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000 円	その他の経費(月額)	水道・光熱費9,000円,その他実費
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	380 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		1,380 円

### (4) 利用者の概要(2月12日現在)

利用者人数	27 名	男性	11 名	女性	16 名
要介護1	11 名	要介護2	12 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 81 歳	最低	59 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	協立病院
---------	------

徳島県 グループホームかがやき2号館 1

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体病院の駐車場を隔てた場所に建てられており、医療連携体制が利用者・家族へ「安心」を提供している。近隣には小学校や民家が建ち並び散歩途中には、地域住民と交流ができています。3ユニットそれぞれの居室は馴染みの物や写真を持ち込み、名札も自分の好みに飾り付けられ、レクリエーションの時間には参加したいユニットに移動できるなど個別性が尊重されている。そして各利用者は自分の役割を持ち、笑顔で対応する職員と家族的な雰囲気の中で生きがいを持って日常生活を楽しまれている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「重要事項説明書、契約書への権利の記載」、「認知症介護に関する基礎研修受講」、「ホーム便りの発刊」については改善されている。「グループホーム独自のパンフレット作成」、「薬や刃物などの夜間の保管・管理方法についての明文化」については、改善されていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義を理解し、各ユニットのリーダーが中心になり、全職員の意見を集約して作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議のメンバーは、地域包括支援センター職員・民生委員・家族会代表・利用者・事業所関係者(代表者、管理者、職員)で構成され、3ヶ月に1回(19年度は4回)開催している。第1回では、グループホームの役割について意見交換し、その後はホームの現状・外部評価結果・地域との連携等を議題としている。消防署が関わる避難訓練の計画もこの会議から提案されている。会議録は書式にそってまとめられ、全職員が回覧されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が来訪した時には、その都度利用者の状況を報告し、要望や意見を出してもらっている。定期的に請求書を送付し、同封のホーム便りで今後の予定や実施したことを報告するとともに、利用者の暮らしぶりも伝えるようにしている。直接意見を出し合う場も設定しており、その場での意見については日々のサービスに反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事には、積極的に参加し楽しんでいる。近くの小学校4年生の実習を受け入れたり、婦人会のボランティアを受け入れ地域の一人としての連携に努めている。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

## 2. 評価結果(詳細)

(    部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの理念はあるが、地域密着型サービスとしての見直しができている。	○	地域密着型サービスとしての理念への見直しに取り組まれない。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービスとしての理念が作成されていないため、共有ができていない。	○	地域密着型サービスの理念を作成し、日々のサービスの中に反映されるよう職員が共有することが望まれる。
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会や小学校の行事に参加し、グループホームの行事には地域に案内状を出し、相互交流を図り、楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が評価の意義を理解し、自己評価は各ユニットのリーダーが中心になり、スタッフの意見を集約している。外部評価の結果は運営推進会議で報告し、改善に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、グループホームの役割・活動報告・外部評価結果・災害対策等を議題にし、地域代表をはじめ利用者・家族の意見を取り入れ日々のサービスに活かしている。開催が3ヶ月に1回程度になっている。	○	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の持ち方について相談したり、緊急利用の連絡を受けつけたり、サービスの向上を目指して担当者との連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書を送付する時には、行事予定表・行事実施表に添えて利用者の情報提供を行っている。その他、面会時や状態変化時にはその都度報告ができています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、定期的に家族代表と職員が話し合う機会を設けたり、面会時等に気軽に話しやすい雰囲気が作られている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は、ユニット間のみにとどめ、馴染みの関係を大切にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的にリーダー研修や基礎研修が受けられるよう調整するとともに、法人内研修・施設内研修への参加を促し、全職員への伝達システムも整えられ機能している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所との相互訪問研修に参加するなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の気持ちや家族の意見を尊重しながら一番納得のいく方法を提示し、焦らず時間をかけて馴染んでいけるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	着物で過ごす利用者からは、帯の結び方や着物の種類等多くの事を学んでいる。職員は薬の飲み忘れがないように声かけするなど自然な形で家族的な関係が築けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が散歩に出かける時に、職員が同行することを希望すれば付き添い、希望しなければ安全面に配慮しながら、目立たないように付き添う等、その時々気持ちを大切にされた対応を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見を聞き、週1回の定期カンファレンスや毎朝のミーティングで意見を出し合って、理解しやすい表現を用いた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度は定期に見直し、状態変化時にはその都度行い、家族の同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制があり、利用者・家族の安心が得られている。美容院やかかりつけ医への付き添いについても希望にそって行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院だけでなく、本人、家族の希望するかかりつけ医への受診介助も適宜行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時から、本人、家族、かかりつけ医等、関係者と話し合い、方針の共有ができています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	書類はマニュアルにそって保管されており、写真の掲示は個別に同意書をもらうなどの取り組みを行っている。また、排せつ誘導時等の利用者への配慮もされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、ユニット毎の担当が、レクリエーションの計画をしているが、その中から選択して他ユニットへの移動・参加が可能になっており、希望にそった支援ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は調理の下ごしらえや食卓拭き、箸並べ、配膳の手伝い等を行い、職員と一緒に食事をとり、後片付けも協力している。また、利用者の希望や状態に合わせ、別献立にしたり、形態を変えたりと食材の好みや食べやすさを考えた工夫もされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中は毎日入浴できる体制があり、一人ひとりの希望に合わせて楽しめる対応ができています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自室の掃除やゴミ出し、調理の下ごしらえ等、一人ひとりができる役割を実践することで、生きがいに繋がっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一日に何度も出かけた人、一度出れば2時間あまり歩かないと満足できない人等には、できるだけ希望にそよう付き添っている。また、普段出かけることが少ない人には、施設外の行事参加や外食を計画し、外出の機会を作っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階・3階のユニットは施錠しているが、2階は鍵をかけない時間帯も設けている。	○	利用者の状態により安全を優先しているが、関係者間で検討を重ね、日中は、鍵をかけないケアができるような取り組みが期待される。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員・利用者による避難訓練は、年2回実施している。また、消防署員・民生委員など地域の協力を得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の管理栄養士が作り、職員は食事・水分摂取量を記録し把握しており、時間を決めて補えるよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や食堂には、おひな様や作成者を明示した貼り絵などの作品が飾られ、明るい雰囲気になっている。テレビを見たり会話を楽しんだり自由に過ごせるように、柔らかいクッションも置かれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベッドとタンスが備え付けられており、ベッドのマットレスを畳に変えたり、好みのベッドを持ち込んだりと居心地良く過ごせる配慮がされている。		